

第 1 回 「校章のお話」



「五葉のいちよう」と「円」が校章を形作っています。上部のいちよう以外は、非対称のデザインとなっています。そして、中央に「五泉」の文字。

「校章きまる」と題された東小だより（昭和 52 年 3 月 14 日発行）で、デザインの意図が次のように述べられています。

- 1 市の木であり、校庭の植樹や子ども達の親しみやすさを考え、いちようの葉を本校の象徴とした。
- 2 いちようを五葉で構成し五泉の「五」にちなませた。
- 3 いちようの葉で作られた形（文字の地）は「東」を暗示した。
- 4 いちようを囲む園は東の日輪を表した。

また、同じだよりでは、「校章に託す願い」が掲載されています。（※ 当時の原稿が縦書きでしたので、そのように表示しました。なお、原文ママです。）

東小で生まれ行く
子ども達の魂が、
いちようの若葉の
さわやかさに、
秋の日に映える
その美しさに、
鉛色の空を
つきさすように立つ
その木々の雄々しさに、
あやかれと願う
東小で磨か行く
子ども達の知性が、
東の日輪の
新しい望みと輝きと、
おおらかさを
求めてやまないことを願う

東っ子が、「新潟五泉」という雪国の地に、さわやかに、雄々しく、そして知性豊かに成長していくことを願ってやまない思いが語られています。

このように、「校章」は、五泉東小の昔と今と未来をつなぐ「伝統」の一つです。校章の「由来」を知ること、自分が「伝統をつなぐ東っ子」の一人であると自覚することになります。お子さんと校章のことを話題にしてみませんか。



校章が出来上がるまでの過程は、職員室前廊下に掲示しておりますので、お時間のある際にご覧いただけましたら幸いです。（このページへのお問い合わせは、校長へお願いします。）